

Anniversary 100th「生徒一人ひとりが^{ひかり}太陽輝く学校」

～ 資格、部活、地域とのパートナーシップで人間力を高める三商 ～

スクールミッション

豊かな人間性をもち、ビジネスに関して優れ、国際人として活躍でき、規範意識と責任、誠実な態度で積極的に前進する意欲をもつ生徒を育成する。
「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN商』」をスローガンに、各種活動や地域社会に根差した活動を通して、自己の実現に向け、自ら考え判断できる創造的な生徒を育成する。

1. 目指す学校像

- (1) 生徒の人権を尊重しつつ、基本的生活習慣を確立し、自他の個性の伸長に努めることができる、豊かな人間性の育成と健康の増進を図る。
- (2) 基礎学力を身に付けさせ、生徒一人一人の能力や適性を引き出し、主体的に判断し行動できる資質や能力の育成を図る。
- (3) わが国の経済社会を担う人材を育成するため、ビジネスに関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、専門性の深化を図る。
- (4) 地域貢献活動や地域連携活動により、健全育成を図るとともに、魅力ある商業高校として、地域に愛され、深く信頼される学校として教育活動の充実を図る。
- (5) 国際化が進むわが国の経済社会の変化に適合していくため、体験的な活動により異文化理解をすすめる、グローバル化に対応していく文化的な素養を高揚させる。

2. スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ①互いの人格を尊重し、協調性を身に付け、自他の個性の伸長に努めることができる。
- ②取得した資格を活用して、ビジネスに関する知識や技術に生かし、地域産業の発展や文化の向上に貢献できる。
- ③規範意識をもち、自覚と責任のある行動ができる。
- ④積極的に前進する志と意欲をもって行動することができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ①基礎学力を身につけ、情報リテラシーを習得し主体的に利活用・応用できる。
- ②物事に対する関係性や変化等に気づき、その中で自分の思いや考えをまとめ、目的に応じた方法で表し、伝えることができる。
- ③さまざまな状況下で先を見通したより良い行動を考え実行でき、行動を振り返り、課題を見つけ、改善していくことができる。
- ④自己理解と他者理解に努め、協調して良好な関係を築き、規範意識を高めつつ継続して取り組む姿勢をもち、周囲と協力しながら自己の役割を果たすことができる。

(3) アドミッション・ポリシー

- ①意欲をもって、日々の学習や学校行事、部活動などに取り組むことのできる生徒
- ②学校や社会のルールやマナーを守り、学校生活を送ることのできる生徒
- ③ビジネスに関する授業に興味を持ち、粘り強く学習することのできる生徒
- ④資格取得に挑戦し、自らすすんで自己の進路を切り開いていくことのできる生徒
- ⑤自己の個性を伸ばすとともに、他人を尊重し思いやりをもつことのできる生徒

観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標及び方策
学 習 指 導	(1) 主体的で対話的な深い学びの視点に立ち、学習の充実を図り、幅広い教養の基礎となる知識・技術を習得するとともに思考力・判断力・表現力を養う。 (2) 基礎・基本の充実を図り社会生活に必要な知識・技術を習得させるとともにビジネスに関する資格取得を推進する。 (3) 自ら課題を発見し解決に向けて主体的に取り組む力を育成することで、自らの進路を切り拓く実践的な資質を養う。 (4) 習熟度別授業や少人数制授業を通してきめ細かい指導を実施し、「生徒自らが学びたい授業」を実現する。 (5) 東京 2020 レガシーを活用し、日本の伝統文化、異文化理解を身に付けさせる。	(ア) 主体的・対話的で深い学びを効果的に実践し、協働的な学びを推進して、生徒の学力を向上させる。 (イ) ICT 機器や生徒一人 1 台端末を活用し、個別最適な学びを推進して、効率的で効果的な授業を展開し、デジタル技術を活用した教育を推進する。 (ウ) 観点別学習状況評価の検証と改善を行い、学習指導・評価の一体化と充実化を図る。 (エ) 地域関係機関との連携や地域を課題とした学習に取り組み、地域活性化のアイデアを提案し、ビジネスを考え、動かし、変えていける生徒を育成する。 (オ) 習熟度別授業や少人数授業を通じて、個に応じた学習指導の徹底を図り、学習の質を向上させる。 (カ) 放課後補習や長期休業期間中の講習の実施、課題の提出により学習習慣を高め、自学自習を支援する。 (キ) 図書館の利活用や長期休業中の読書指導を推進し、知的好奇心の寛容を促し、読解力の向上を図る。	目標 社会の急激な変化に主体的に対応できる人材の育成 (あ) インプット中心の学習から、アウトプットを主体とした学習への転換を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を高めさせる。 (い) 課題解決型学習や探究的な学びを取り入れながら、生徒の課題意識や情報収集力、情報活用力、プレゼンテーション能力を高めさせる。長期休業日や放課後を活用した補習・補講を実施し学力向上を図る。 (う) 社会の人材活用や、地域、企業との連携により、実務に即したビジネス教育の充実を図る。 (え) 生徒による授業評価アンケートの結果を生かして授業改善に取り組む。 (お) 若手教員研修、中堅教諭資質向上研修や教員間の授業相互見学の機会を通じて、全教員の授業力向上を図る。 (か) 情報活用能力を育成するために、授業や進路指導における一人 1 台端末を効果的に活用する。 (き) 図書館の機能を充実させ、読書活動を推進し、言語活動の充実に努める。 【数値目標】 ①基礎科目に関する検定合格率（簿記、情処、電卓、商経等） 90%以上 ②全商英語検定 3 級合格率 70%以上 ③全商簿記検定 1 級（財務会計・原価計算 2 科目受検者の）合格率 50%以上 ④生徒による授業評価アンケート「授業満足度」 90%以上
生 活 指 導 ・ 健康づくり	(1) 基本的生活習慣を確立するために、家庭との連携や生徒に自覚と責任をもたせるよう生活指導の徹底を図る。 (2) 体罰や不適切な指導を根絶し、生徒に寄り添う指導を通して、生徒との信頼関係を構築する。 (3) 交通安全教室、セーフティ教室等を通して、生徒の安全意識の向上を図る。 (4) 家庭やスクールカウンセラー、関係機関との連携を図り、自殺対策、SOS の出し方、自他の生命を尊重した教育を実施して、生徒の自尊感情、自己肯定感を育成する。 (5) 地域と連携した防災訓練を通して自助・共助・公助の精神を培う。	(ク) 都立高校生活指導指針に基づき、全教職員による組織的な生活指導の徹底を図り、挨拶の励行、時間の厳守、環境整備、頭髪・身だしなみ指導の基本的生活習慣を確立する。 (ケ) 学校のルールを守り、節度ある学校生活を送らせるとともに、時間や約束事を守ることを意識させ、けじめのある学校生活を送らせるよう指導する。 (コ) セーフティ教室、薬物乱用防止教室、防災訓練等を活用し、生徒の安全教育や学校の安全管理体制を徹底する。 (サ) 生徒情報の校内共有体制と生徒からの教育相談体制を充実させ、S C や外部機関との連携を活性化させる。 (シ) あらゆる災害を想定した避難訓練や防災訓練を通じて、実践的な災害対応力を育成する。	目標 T P O に応じた適切な行動力の育成 (く) 服装指導、頭髪・身だしなみ指導、遅刻指導に全校体制で取り組み、生徒の社会的資質や T P O に応じた行動力を高めさせる。 (け) 登校時間や授業開始時間を守らせ、遅刻のないけじめのある学校生活を送らせるよう指導する。 (こ) セーフティ教室を実施し、生徒の健全育成に関する取組の充実を図るとともに、関係機関との連携により非行防止・犯罪被害の防止に努める。 (さ) TOKYO ACTIVE PLAN for Students を参考に、さまざまな体育的活動を通してスポーツに親しむ機会を増やし、分かる楽しさやできる喜びを実感させながら健康の保持増進や体力の向上に取組ませる。 【数値目標】 ①自転車による生徒事故件数 0 件 ②特別支援教育に関する委員会の開催回数 4 回以上 ③部活動加入率 80%以上 ④自転車通学者ヘルメット着用率 100%
進 路 指 導	(1) 計画的・系統的な進路ガイダンスを実施し、各種調査や適性検査、資格取得等の指導を行って、進路実現を図る。 (2) インターンシップを充実させ、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、関係機関との連携の下、体験学習の機会を多く取り入れ、主体的にコミュニケーションを図るスキルを育成する。 (3) 「キャリア教育推進計画」に基づいて、組織的・計画的に進路指導を行い、進路実現を図る。	(ス) 進路指導部と学年が連携して、生徒の自発的な進路活動を支援し、進路情報のデータベースを活用して、効果的な進路指導を実施する。 (セ) インターンシップ等を通じて、地域や地元企業と連携し、生徒のマナーやコミュニケーションスキルを育成し、キャリア形成力に対する意識を高めさせる。 (ソ) 系統的な指導計画に基づく資格取得や、進路相談体制を充実させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る。 (タ) 大学、企業、地域や関係諸団体との連携を積極的に進め、生徒自身のキャリア形成に対する意識を高めさせる。	目標 進路決定率 100%の堅持と高いレベルでの進路実現に向けた指導の充実 (し) 進路指導に関するさまざまな機会を通して、社会人として必要な振る舞いやコミュニケーションスキルを身に付けさせる。 (す) 普通教科を中心とした基礎学力の定着に向けた指導を充実させ、一般常識や小論文対策講座を実施し、採用試験対策や入試対策を行う。 (せ) 就職を目指す生徒に対して、全教員で面接指導に取り組む。 (そ) インターンシップを活用し、実務的・体験的な学びを通して望ましい勤労観を養い、働くことの意義を理解させる。 【数値目標】 ①進路決定率 100% ②就職試験 1 社目での内定率 80%以上 ③大学現役合格者数 20 名以上
特 別 活 動 等	(1) 部活動への参加を促し、豊かな人間性の育成と個性の伸長を図るとともに学校への帰属意識や連帯感を高めさせる。 (2) ホームルーム活動を充実させ、学校行事等を通して、生徒相互の人間関係、課題解決能力やコミュニケーションスキルの育成を図る。 (3) 地域貢献や地域社会との連携を積極的に行い、社会に開かれた学校づくりを推進する。 (4) 海外の高校との交流を通して、基盤となる英語力、創造的・論理的思考力、豊かな国際感覚を育成し、国際理解教育の充実を図る。	(チ) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実化と活性化を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援し、自主性、自律性、規則性を高めさせる。 (ツ) いじめアンケートや組織的な情報共有を通していじめの未然防止・早期発見・早期対応と体罰の防止を図る。 (テ) 部活動ガイドラインに基づいた活動計画を立案し、効率的で効果的な部活動運営を推進する。 (ト) 部活動は、週当たり 2 日以上 の休養日を設ける。 (ナ) 地域ボランティアや体験活動に参加する。 (ニ) 海外の高校との交流活動を通して、国際社会への関心を高めさせ、日本の伝統・文化の良さを発信できる生徒を育成する。	目標 チャレンジする生徒に向けた指導充実と人間力の育成 (た) 部活動ガイドラインを遵守し、学習と特別活動を両立させる。 (ち) いじめアンケートや体罰調査を通じて、兆候や実態を早期にとらえ、未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応を行う。 (つ) 商業高校向け競技大会、コンテスト、専門高校生海外研修への参加を促し、他の商業高校との交流や発表活動を通してビジネススキル向上を図る。 (て) 外部検定試験実施校制度やオンライン英会話事業を活用して、英語によるコミュニケーション力を育成する。 【数値目標】 ①商高連・都商研主催競技大会で 3 位以上の部活動 3 団体以上 ②部活動加入率 85%以上 ③生徒による授業評価アンケート（学校満足度） 90%以上
募集・広報活動	(1) 広報活動を充実させ、全教職員が組織的に商業高校としての本校の魅力を外部へ発信する。 (2) 創立 100 周年に向けて、生徒の発表活動を充実させる。	(ヌ) 募集対策活動・広報活動を充実させ、生徒のさまざまな活動を情報発信して入学者選抜で適正な倍率を確保する。 (ネ) 本校で実施する学校説明会・体験入学の実施内容を精選し、本校の特色やビジネス教育の有利性を発信する。 (ノ) 地域主催の行事に積極的に参加・協力し、同窓会・PTA と連携して創立 100 周年記念事業に向けた準備体制を推進する。	目標 教育活動を効果的に発信による入学希望者の増加 (と) 中学校や塾訪問を行い、本校の特色やビジネス教育の優位性を発信する。 (な) 学校ホームページのタイムリーな更新や「# だから都立高」での本校の特色を有効に発信し、入学希望者確保に努める。 【数値目標】 ①推薦選抜応募倍率 1.20 倍以上 ②学力検査（第一次）応募倍率 1.00 倍以上 ③学校ホームページ更新回数（年間） 250 回以上
学校経営・ 組織体制	(1) 全教職員が課題を共有し、課題解決に向けた協力体制を構築し「誰一人取り残さないきめ細やかな教育」を実現する。 (2) 個々の教員の指導力向上を図るため、O J T の推進し、組織的な支援体制を構築して組織力の向上を図る (3) ライフ・ワーク・バランスを推進し、各分掌の業務を見直し、P D C A サイクルによる効率的な校務運営を行う。	(ハ) 生徒等の個人情報等を適切に管理・運用するため、「保有個人情報安全管理基準」等の規定を遵守し、教職員の意識を高めながら服務事故ゼロを目指す。 (ビ) 企画調整会議を学校運営の中核として機能させるとともに、予算調整会議を充実させて予算執行の進行管理や施設・設備の維持管理を的確に行う。 (フ) 校務の効率化を図り、「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進する。 (ヘ) 施設改修に当たっては、本校の教育活動が効果的に最大限に機能できるよう、綿密に職員間の情報共有を図る	★服務事故ゼロ及び生徒の重大な事故ゼロの実現と適正な学校運営の推進 (に) 情報セキュリティに対する職員の意識を向上させ、服務事故防止研修を念 3 回以上実施し、服務事故のない職場づくりを推進する。 (ぬ) 職員研修や O J T の充実を図り、学校が抱える課題及び解決に向けた方策を共有化する。（各分掌年 1 回以上の研修実施） (ね) 業務分担の適正化や会議時間の短縮等によって業務効率化を図り、特にホームルーム担任の負担軽減を目指し、業務量の格差の解消を図る。 (の) 校務分掌決定に当たっては、ジョブローテーションを行い、新しい視点でのアイデア創出や組織の活性化を涵養して学校課題の解決を目指す。 【数値目標】 ①一般需用費のセンター契約集約率 60%以上